

岩木山～月山山行報告

【山行日】2015年10月 1～4日(木～日)
【集 合】栃木市運動公園P AM 3:00
【費 用】マイカー2台 : 34,000円
【メンバー】CL:大西 SL鈴木、岩淵、香川、
島田、田村、福田、藤原、松館、渡辺

1日 晴れ 栃木市から弘前市に向かい、岩木山登山口から岩木山をピストンし酸ヶ湯温泉に泊る
栃木市運動公園P3:00＝岩木山登山口
9:30/9:50～岩木山 11:00/11:40～岩木山登山口
12:45/13:10＝酸ヶ湯温泉 15:30

一年前から計画し臨んだ岩木山(津軽富士)は最高の眺めを味わえました。

去年は登山口で強風に吹かれ濃霧の中諦めた山です。

栃木運動公園を3時に出発し、大鰐弘前ICから出てアップルロードを走り、見事色づいたリンゴに歓声



が上がります。でもリンゴの収穫時季にはまだ早く、直売所は開いていませんでした。嶽温泉の先から津軽岩木スカイラインを使い色とりどりの紅葉に胸ふくらませながら8合目駐車場に予定より早く着きました。駐車場にはレストハウスが出来、綺麗なトイレが利用できるようになっていました。今年も風は吹いていますが、リフトは動いており展望も良く一年待った甲斐がありました。10名は、リフトを使う班と使わず登る班に別れて登ります。



紅葉はナナカマドの葉が落ち赤い実だけが光っていました。

リンドウはもう鮮やかな紫の色は失せていました。

二班に別れるとお互い意識して頑張るのか？山頂に早くつくようです。

リフトを降り、少し下って鳥ノ海火口の脇を通過して頂上を目指します。



登山道は整備されて、一方通行になっており、矢印に従って歩くと下りの方とぶつからず歩きやすい。

鳳鳴ヒュッテから先は、岩場の急登が続きます。山頂までの半ばで、下から登って来た7名に追い越されますがマイペースで登ります。

山頂に着くと、白神山地・鳥海山・月山から津軽半



島の向こうに北海道まで確認できました。
 山頂で思いっきり絶景を楽しみます。こんなに眺望が良い日はめったに無いことです。
 山頂に、避難小屋やエコトイレが設置されて利用でき助かります。
 奥宮跡の傍で昼食をとり思い思いに楽しんでから下山となりました。
 途中道の駅でリンゴなどお土産を買い、スーパーで食料を調達して今日の宿酸ヶ湯温泉に向かいます。連泊の自炊は少し忙しいですが、その好きなものを食べ飲み気楽に過ごせる良さがあります。



今晚のメニューはお刺身とおでんに、各自が持ち寄った品々がテーブルに並び賑やかな宴となります。不調法なCLにかわり、ほろ酔いのMちゃんから“津軽海峡冬景色”が披露され喝さいを浴びました。食後は片付け担当の男性陣が綺麗に片づけ、明日の時間を決めて女性専用時間に温泉に向かいます。女性専用の千人風呂は云う事なし最高に良い温泉でした。

大西記

2日 曇り時々晴れ 酸ヶ湯登山口から八甲田清水経由で大岳ピストン&下毛無岱ピストン

A 班: 酸ヶ湯 9:00～地獄湯ノ沢 9:50～仙人岱 10:10～大岳 10:55/11:05～仙人岱雑小屋 11:40/12:20～酸ヶ湯 13:20

B 班: 酸ヶ湯 9:00～下毛無岱 10:20/10:30～酸ヶ湯 11:30



強いて言えば、昨晚降った雨の影響で登山道が悪路であったのは少しストレスだった。途中、下山してくるたくさんの登山者とすれ違う。
 聞けば、樹林帯の終わる地獄湯の沢を吹き抜ける風が猛烈で、皆、そこで諦めて引き返ってきている。沢を流れ落ちる水が風で噴き上げられているというから相当な風だ。
 八甲田はまだ私を迎え入れてくれないのか？という思いが頭をよぎる。
 しかし、我々には経験豊かなリーダーがいる。きっと、我々を山頂まで導いてくれると信じた。
 地獄湯の沢の手前で小休憩。

北海道の西の海上に居座る爆弾低気圧の影響で推定風速 30メートルほどの暴風の中の山行となった。

山頂を目指したのはメンバーの中で健脚&パワーのある4名のみ。

当初の計画は毛無岱から大岳、そして仙人岱へ下りるという周遊だったが、風を考慮して仙人岱から大岳を目指すことになった。

登山口の薬師神社からはしばらく樹林帯の中を進む。

風が吹いているのはわかるが、樹林帯の中であるため何の影響も受けずにズンズン進んだ。





気付くと他のメンバーはアウターを着用していたので、私も慌てて着た。

あとでわかるのだが、沢を吹き抜ける暴風はどんどん体温を奪っていく、そして、その暴風の中でアウターを着用するのは非常に困難であり、着用するのはこのタイミングしかなかったわけだ。

地獄湯の沢に出ると沢に集まった風がものすごい勢いで噴き上げて行くのがわかった。

ときに風に煽られバランスを崩しながら、沢を渡り、そして沢沿いのガレ場を登って行く。

地獄湯の沢をもう少しで抜けられるというところで風がさらに強くなり、耐風姿勢をとりながら風

が少し弱まるタイミングを5分ほど待つ。そして、リーダーの合図で再度登り始め、地獄湯の沢を無事に抜けることができた。

地獄湯の沢を抜けた仙人岱は短いながらも木道の続く高層湿原。八甲田山に風をガードしてもらいながら、つかの間の日差しの中、静かで、気持ちのよい木道歩きができた。

仙人岱からは山頂へ向けての最後の登りとなる。

森林限界に出ると暴風をモロに受けながらの登山。

何度となく風に身体を煽られながらも大岳(八甲田山頂)へ。

山頂はまっすぐ歩くことができないほどの風、そして、ガスがかかり眺望もなかったため、記念撮影だけをして早々に下山することにした。

毛無岱側への下山も検討していたが、暴風のためリーダー判断で来た道を引き返すことに。



下山を始めると横殴りの雨やアラレが飛んでくる。それらが頬に当たるととても痛かった。

しかし、仙人岱まで下りるとそこは再び静かな湿原となり、登頂できた安心感から草紅葉などの景色を楽しむ余裕も出てきた。

そして、仙人岱避難小屋で昼食休憩。

冷えた身体を温めてくれるラーメンと出がけに握ってもらった梅干しのおにぎりが最高に美味かった。山歩きを始めて10ヶ月程度だが、その中のザ・ベストに間違いない。

しばし休憩をした後は、再び、風が吹き抜ける地獄湯の沢、そして、樹林帯を高速で駆け抜け無事



下山となった。

途中で出会った女性2名は「山頂直下の風で身体が浮き上がりそうになり引き返してきた」と言っていた。

この日に登頂を確認できたのは、我々以外では4名。引き返してきた人は数え切れず。

過酷な天候での登山となったが、普段(自宅からの日帰り登山)であれば中止と判断せざるを得ない状

況でも「せっかくここまで来たのだから山頂を踏ませたい」という経験豊富なリーダーのおかげである。風速 30M を登った経験をこれからの山行にも活かしていきたいと思う。

H・K記

B班6名は風を避けるため、木々の中を登る毛無岱コースを選んだ。

最初は少し風を感じながら登ると、開けたところに出て私たちが泊まっている酸ヶ湯温泉の建物や駐車場が見えた。この分ならもしかすると歩けるかなと期待も湧いてくる。赤は少ないが紅葉は見頃です。



木の階段から木道に変わるころ、何組か強風に八甲田山頂を断念して歩けるところまでと登ってくる人たちに会う。今頃わがA班の4名達はどの辺を歩いているのかなと案じながらおしゃべりに興じた。

楽しみにして登る日が強風で、諦めるのに時間を要するのは私一人ではないようです。

第一目標の下毛無岱に着きベンチに腰かけた時諦めがついた。草紅葉の草原は遮るものがなく

立っているのも大変な状態で急いで今来た道に戻った。

木々に覆われた場所に着くと風が弱まって歩きやすい。

登山口に着いたのは11時30分になっていた。お昼は各自好みの食事として蕎麦を食べに出かけた。

私は田村さんとのんびり部屋で寛ぎながら昼食をした。

皆さんが戻って夕食の準備が始まりました賑やかな夕食会となった。

大きなお鍋いっぱいのおすき焼きは、食べきれない程で皆さん大満足ご馳走様となった。

今日も一日お疲れ様でした。

大西記

3日 雨後晴れ 見返峠レストハウスで天気回復を待つが、荒天で登頂を断念。ビジターセンターでお土産を買い、月山登山口の「ロッジやつなみ」に移動する。

酸ヶ湯温泉6:00=見返峠P8:10/9:30=松尾八幡平ビジターセンター10:00/10:30=前沢SA11:30/12:10=ロッジやつなみ 14:50



朝4時起床、各担当者によって朝食が整えられた。

メニューは野菜炒め・目玉焼・納豆・昨夜のおすき焼きがあり各自美味しく頂いた。

残念ながら今朝は予報通り雨の出発となった。高速道に乗り、小坂 IC を越えたあたりから雨は止み時折陽が射すようになる。松尾八幡平 IC で降りる頃には晴れて来て、八幡平アスピーテラインは紅葉が素晴らしかった。ところが登って行くにしたがって霧が濃くなり、見返峠の駐車場に着いた時は雨が降り出し、何も見えない状況になった。レストハウスが開くまで待つと、雨がさらに強くなり

り風も吹き荒れて車から降りるのも躊躇する状況になった。暫く車の中から止んでくれるのを待ったが一向に雨は止まない。今日の八幡平は20分で山頂まで行けるので、雨でも傘を差して往復できると軽く考えていた。

松尾八幡平ビジターセンターが開いて一応お土産を覗きに車から降りた。

秋田県のみやげものを見つけて食べて時間を潰し様子を見たが天気が回復する兆しが見えない。

この風雨の中登るのは危険と判断し、登頂を断念して途中のビジターセンターに向かった。ビジターセンターの直売所は、農産物が豊富に揃っていて里心がつき野菜を沢山買ってしまった。スーさんが山ブドウを2袋買ったが、これが大変なことになるとはこの時は思いもしなかった。

高速に乗り、前沢SAで昼食を摂り思い思いに好きなものをいただいた。途中、今晚のお酒が無いことに気が付き、一つ手前の西川 IC で高速を降りコンビニでお酒をゲット。下の道を走って、今日の宿“ロッジやつなみ”に着いた。



雨はなく風は冷たいが明日は山頂まで行きたいです。

建物は綺麗で明るい部屋に喜んだ。男女別で5人一部屋になった。お風呂に浸かり夕食までの待ち時間を“乾杯”しながら待った。夕食はイワナの塩焼きにアケビの煮物やキノコ汁など、山の幸がふんだん入りとても美味しくいただいた。明日の月山登山に期待して、早めに床に就いた。

大西記

4日 晴れ後雨後晴れ 姥沢からリフトを使って姥ヶ岳に登り、月山に登頂して

ロッジやつなみ 7:20～リフト下駅 7:35+++リフト上駅 7:50/8:00～姥ヶ岳 8:30～牛首 9:00～月山 9:55/10:20～牛首 11:00～リフト上駅 11:35+++リフト下駅 12:00～ロッジやつなみ 12:30＝寒河江 SA 13:00/13:40＝栃木市運動公園 P16:35



リフトの運行時間に合わせて、朝食の時間を30分早くしてもらった。

炊き立てのご飯に、キノコが入った味噌汁はとても美味しく、卵焼きや焼魚も美味しく皆完食した。ロッジやつなみから、歩いてリフト乗り場に向かう。途中、関所があり自然保護協力金を徴収される。リフトは、7時30分運行の予定だが、今日の運行は8時からとの事。

30分もたいたいなと思いながら待つと、5分後に「今から動きます」とのアナウンス。

どうなってんの！！予定通りリフト上の駅に着くが、天気は今一で月山山頂は暗い雲の中に……

気を取り直して、ストレッチをして記念写真を撮り姥ヶ岳に向かった。時折ガスが晴れると、姥沢の草紅葉が見え、錦の絨毯のような光景に歓声が上がる。姥ヶ岳山頂に出ると風が強い。全員で記念写真を撮り、ここから山頂に向かう7名と散策して下山する3名に分かれて行動する。

金姥までは稜線歩きで、風をまともに受けとても寒かったが、その先はトラバース道を歩くようになり寒さを感じず歩けた。突然ガスが晴れると周囲の山が見渡せ、草紅葉の絶景が広がる。





牛首から先は岩稜の急な登りとなり、風も強く冬のオーバージャケットを着いても寒かった。頂上から降りてきた人が、「上は凍ってます。」と言うので「エ～登山道がですか？」と聞くと、登山道は凍っていないが草や木が霧氷で凍っているとの事だった。1700mを越えたあたりから、木の枝や潤れた草に霧氷が真白に付いてとても綺麗だった。山頂手前の石垣には、真白くエビのシッポが付いていた。

月山頂上小屋に着くと、全員でトイレに直行する。皆さん寒さでお手洗いを我慢していたようだ。山頂神社で記念写真を撮り、その奥の石垣で囲

まれた場所でバームクーヘンとリンゴをいただく。神社の裏にある三角点に向かったが、かなり北側に回り込むので時間が掛かり、途中で引き返して下山する。下り始めると、登山者が次から次に大勢登ってくるので、すれ違いに時間が掛かる。登り優先とばかりに、強引に登ってくるので待つ時間が結構掛かってしまう。牛首まで行くと、さらに登山者の数は増えてきた。山頂は雲の中だが、1700mからは晴れて来て草紅葉の絶景が広がっていた。

我々も牛首で休憩し、紅葉の絶景を楽しみながらミカンを美味しくいただく。休んでいる間も、登山者が途切れることなく登って来た。これでは山頂は大混雑することだろう。我々は早く山頂に着いたので、のんびりできて良かったと



思った。牛首からリフト山頂駅までは、錦の絨毯の中を歩く夢のような遊歩道。すっかり晴れ渡り、風も無く紅葉を満喫しながらのんびり歩く。写真を撮り、皆と離れると速足で追いかける。リフト山頂駅で記念写真を撮り、絶景に後ろ髪をひかれる思いでリフトに乗り込む。

山麓駅で、散策組の3名が出迎えてくれた。「串コンニャクと芋煮汁が美味しいよ」と言うので、好きな方をいただくことにする。我輩は芋煮汁をいただいたが、大



きな里芋ときのこが沢山入っておりとても美味しかった。ロッジやつなみに戻り、帰る支度をしロッジの御主人に挨拶して出発する。

寒河江SAで昼食を食べ、お土産を買い一路栃木を目指した。東北道も順調に走り、予定より早く栃木市運動公園に着いた。

今回の東北の山行は、爆弾低気圧の影響で天気が良くなかったが、強風の中で登る経験や





見える。

きっと風を避けながら頑張っているだろうと手を振ってみる。牛首下分岐の所で休憩を入れ少し早いが、リフト上駅に向かった。トイレと休憩場があり中で休憩をした。月山神社の配慮で山頂に行けない方々もお参りが出来るよう祀られている神様へお参りをした。

リフトで戻りA班の7名が戻るのを待った。元気に7名が戻り今回の山行は終了した。

残念ながら強風に追いかけられる山行になった少し残念な結果に終わりましたが、機会がありましたらリベンジをしてください。お疲れ様でした。

防寒対策など経験し、今後の山行に生かせる体験が出来たと思う。

Y・S記

B班は姥ヶ岳山頂で写真を撮ったあと7名と別れてきた道に戻り、風を避けて牛首へ向かった。紅葉は素晴らしく見とれて佇む。これほど色鮮やかな紅葉に出会えて感謝ですが、なにぶんにも風の冷たさは耐え難く静かに止まっているのは辛い。上を見ると姥ヶ岳から牛首に向かう稜線が



大西記